

19年度定時社員総会・セミナー開催

4議案を審議・承認

日本保険仲立人協会

日本保険仲立人協会は3月12日、東京都千代田区の如水会館で2019年度定時社員総会とセミナーを開催した。定時社員総会では、19年度事業計画など4議案が審議され、全て承認された。また、セミナーでは、経済産業省経済産業局産業創造課長兼第四次産業革命政策室長の佐々木啓介氏が「第四次産業革命のグローバル展開」、(株)クレディセイフ企業情報代表取締役の牧野和彦氏が「海外与信に係わるリスクマネジメント」をテーマにそれぞれ講演した。総会とセミナーには会員の他、多数の業界関係者が参加した。



平賀氏

画一の4議案が全て承認された。18年度事業報告で、防災経済コンソーシアムへのシームへの

協会の正会員は18年12月末現在で44社(賛助会員は7社)となり、保険仲立人資格保有者数は1470人になったことなどを報告した。

19年度事業計画では、同協会の基盤をさらに広げていくため、三つの大きな柱として「保険仲立人をステークホルダーに広く知ってもらうための活動推進」「諸官庁や関連業界団体との連携強化のため、定期的な意見や情報交換の励行」「協会の体制整備を進め、業界のコンプライアンス順守を徹底」を掲げ、保険仲立人の存在価値や意義を高めていく方針を示した。

開する。また、全国学生保険学ゼミナール(Risk and Insurance Seminar)への協賛などを通じて、現役学生に対して保険仲立人の存在価値を説いていく。「諸官庁や関連業界団体との連携強化のため、定期的な意見や情報交換の励行」では、金融庁や財務局との連携を引き続き保ちながら、業界の動きを常に的確に把握するよう努める。また、防災経済コンソーシアムへの



佐々木氏



牧野氏

注力分野においては、新たな分散型データガバナンスモデルの必要性、日本におけるヘルスケアデータの新たな価値創出モデル、モビリティの未来とスマートシティなどを紹介し、「今後はこうした分野での取り組みの検証と、社会のあるべき姿の実現に向けて積極的に進めていきたい」と述べた。

また、同センターの当初の注力分野(データ政策、モビリティ、ヘルスケア)や目的について触れた他、19年1月のWEFボス会議に登壇した安倍総理のスピーチ内容を披露した。

注力分野においては、新たな分散型データガバナンスモデルの必要性、日本におけるヘルスケアデータの新たな価値創出モデル、モビリティの未来とスマートシティなどを紹介し、「今後はこうした分野での取り組みの検証と、社会のあるべき姿の実現に向けて積極的に進めていきたい」と述べた。

また、同センターの当初の注力分野(データ政策、モビリティ、ヘルスケア)や目的について触れた他、19年1月のWEFボス会議に登壇した安倍総理のスピーチ内容を披露した。

注力分野においては、新たな分散型データガバナンスモデルの必要性、日本におけるヘルスケアデータの新たな価値創出モデル、モビリティの未来とスマートシティなどを紹介し、「今後はこうした分野での取り組みの検証と、社会のあるべき姿の実現に向けて積極的に進めていきたい」と述べた。

また、同センターの当初の注力分野(データ政策、モビリティ、ヘルスケア)や目的について触れた他、19年1月のWEFボス会議に登壇した安倍総理のスピーチ内容を披露した。

注力分野においては、新たな分散型データガバナンスモデルの必要性、日本におけるヘルスケアデータの新たな価値創出モデル、モビリティの未来とスマートシティなどを紹介し、「今後はこうした分野での取り組みの検証と、社会のあるべき姿の実現に向けて積極的に進めていきたい」と述べた。

また、同センターの当初の注力分野(データ政策、モビリティ、ヘルスケア)や目的について触れた他、19年1月のWEFボス会議に登壇した安倍総理のスピーチ内容を披露した。

注力分野においては、新たな分散型データガバナンスモデルの必要性、日本におけるヘルスケアデータの新たな価値創出モデル、モビリティの未来とスマートシティなどを紹介し、「今後はこうした分野での取り組みの検証と、社会のあるべき姿の実現に向けて積極的に進めていきたい」と述べた。

また、同センターの当初の注力分野(データ政策、モビリティ、ヘルスケア)や目的について触れた他、19年1月のWEFボス会議に登壇した安倍総理のスピーチ内容を披露した。

注力分野においては、新たな分散型データガバナンスモデルの必要性、日本におけるヘルスケアデータの新たな価値創出モデル、モビリティの未来とスマートシティなどを紹介し、「今後はこうした分野での取り組みの検証と、社会のあるべき姿の実現に向けて積極的に進めていきたい」と述べた。

また、同センターの当初の注力分野(データ政策、モビリティ、ヘルスケア)や目的について触れた他、19年1月のWEFボス会議に登壇した安倍総理のスピーチ内容を披露した。

注力分野においては、新たな分散型データガバナンスモデルの必要性、日本におけるヘルスケアデータの新たな価値創出モデル、モビリティの未来とスマートシティなどを紹介し、「今後はこうした分野での取り組みの検証と、社会のあるべき姿の実現に向けて積極的に進めていきたい」と述べた。

また、同センターの当初の注力分野(データ政策、モビリティ、ヘルスケア)や目的について触れた他、19年1月のWEFボス会議に登壇した安倍総理のスピーチ内容を披露した。

注力分野においては、新たな分散型データガバナンスモデルの必要性、日本におけるヘルスケアデータの新たな価値創出モデル、モビリティの未来とスマートシティなどを紹介し、「今後はこうした分野での取り組みの検証と、社会のあるべき姿の実現に向けて積極的に進めていきたい」と述べた。

また、同センターの当初の注力分野(データ政策、モビリティ、ヘルスケア)や目的について触れた他、19年1月のWEFボス会議に登壇した安倍総理のスピーチ内容を披露した。

注力分野においては、新たな分散型データガバナンスモデルの必要性、日本におけるヘルスケアデータの新たな価値創出モデル、モビリティの未来とスマートシティなどを紹介し、「今後はこうした分野での取り組みの検証と、社会のあるべき姿の実現に向けて積極的に進めていきたい」と述べた。

また、同センターの当初の注力分野(データ政策、モビリティ、ヘルスケア)や目的について触れた他、19年1月のWEFボス会議に登壇した安倍総理のスピーチ内容を披露した。



4議案を審議・承認

具体的には、「保険仲立人をステークホルダーに広く知ってもらうための活動推進」では、協会のウェブサイトを中心に充実させる他、同協会のパンフレットをステークホルダー向けに積極的に配布するなどの活動を展

周知活動や業界団体との交流等推進

参加や損保協会、生保協会などの定期的な交流を推進する他、PARIMA(Pan-Asia Risk & Insurance Management Association)の大きな悩みであることから、同協会としてもシーム・セキュリティの強化に努める。また、

理事および監事の選任の取り組みについて、WEFや経済産業省の動きなどを交えながら解説した。

同氏はまず、WEFはイノベーションの社会実装を阻むガバナンスギャップを解消するため、17年3月にサンフランシスコに第四次産業革命センターを設立したこと、そして翌年7月に第四次産業革命日本センターが創設されたことを説明した。

また、同センターの当初の注力分野(データ政策、モビリティ、ヘルスケア)や目的について触れた他、19年1月のWEFボス会議に登壇した安倍総理のスピーチ内容を披露した。

注力分野においては、新たな分散型データガバナンスモデルの必要性、日本におけるヘルスケアデータの新たな価値創出モデル、モビリティの未来とスマートシティなどを紹介し、「今後はこうした分野での取り組みの検証と、社会のあるべき姿の実現に向けて積極的に進めていきたい」と述べた。

また、同センターの当初の注力分野(データ政策、モビリティ、ヘルスケア)や目的について触れた他、19年1月のWEFボス会議に登壇した安倍総理のスピーチ内容を披露した。

注力分野においては、新たな分散型データガバナンスモデルの必要性、日本におけるヘルスケアデータの新たな価値創出モデル、モビリティの未来とスマートシティなどを紹介し、「今後はこうした分野での取り組みの検証と、社会のあるべき姿の実現に向けて積極的に進めていきたい」と述べた。